

みんな大好き！ おじいちゃん おばあちゃんのおはなし



コロナ禍で帰省できず、おじいちゃんやおばあちゃんに長いこと会えていない
お子さんも、まだ多いのではないのでしょうか？

今回は絵本に登場する色々なおじいちゃん、おばあちゃんにスポットを当てて、
読み聞かせにおすすめの絵本と紙芝居を紹介します！

低学年から

上段：内容 下段：おすすめ、読み聞かせポイント

ぼくのおじいちゃんのかお



天野祐吉／文
沼田早苗／写真
福音館書店 (5分)

笑った顔、とぼけた顔、哀しい顔、おじいちゃんの表情がページごとに変わり、
感情豊かに楽しめる写真絵本です。おじいちゃんの表情に加えて、短いけれど楽し
い文章に温かい気持ちになることでしょう。

前半は笑った顔や、とぼけた表情に笑いが起こりますが、後半に入るにつれしん
みりとした雰囲気になります。子供たちの表情も一気にかわりますので、後半は
ページをめくる速さも尚一層ゆっくりめくるとよいでしょう。

おばあちゃんのかいマント



ローレン・カスティーヨ／さく
たがきょうこ／やく
ほるぷ出版 (5分)

だいすきなおばあちゃんが引っ越した先は大都会。
見たこともない景色や聞いたこともない音に溢れていて、ぼくには恐ろしく感じ
られます。
そんなとき、おばあちゃんが編んでくれた赤いマントをはおると、勇気がりんり
ん湧いてきます。

初めての環境に不安になってしまうこと、ありますね。
でも、大好きな人と一緒なら、落ち着いて、見たり聞いたりできるのでは。
ちょっと不安な気持ちを励ましてくれる本です。

ぱくぱくはんぶん



渡辺鉄太／ぶん
南伸坊／え
福音館書店 (6分)

おばあさんがケーキを焼きました。そして、出かける時おじいさんに「はんぶん
のこしといてね」と言いました。

おじいさんがケーキを半分食べた時、犬が来たので「はんぶん のこしとけよ、
おばあさんのだからな」と言いました。そこへ猫、めんどり、りす、かまきり、み
つばちが次々にやって来て…。

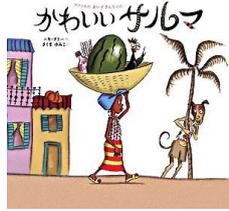
リズムカルなくり返しが心地よい、愉快で楽しいお話です。

子どもはおいしいものを食べたい気持ちがよくわかるので、おじいさんや動物た
ちに共感しつつも「おばあさんの分はのこるかな？」とハラハラしながら聞きます。
そして最後の思いがけないハッピーエンドに大満足！

テンポよく、それぞれのキャラクターの気持ちになって読むと一層楽しめます！

中学年から

かわいいサルマ



ニキ・ダリー／作
さくまゆみこ／訳
光村教育図書（10分）

おばあちゃんに買い物を頼まれたサルマは、おしゃれをして市場へ出かけます。「まっすぐ いって、まっすぐ かえるんだよ。」と言われたのに、帰る途中、口のうまい犬にだまされて…。服も買い物も全部とられてしまったサルマが、おじいちゃんの協力も得て、どんな風に犬に立ち向かうかが見ものです！
アフリカ生まれの陽気で痛快なお話。

「アフリカのあかずきんちゃん」という副題がついていますが、子どもに読むときは、それは言わない方がいいでしょう(ネタバレになるので)。
きっと途中で「あれ？どこかで聞いたような？」と気付くはず。
ただ本の中に出てくるアナンシについては、はじめに「アフリカの昔話によく出てくるクモの名前」と伝えてあげるといいかもしれません。

じいちゃんとないしょ ないしょのやまのぼり



わたなべさもじろう／作・絵
鈴木出版（7分）

じいちゃんと2人で留守番をしていたけんたは、昔は山登り名人だったじいちゃんと山登りをすることに。

普段と違うじいちゃんの力強さを間近で見て、やはり山登り名人だったんだ、と思います。

一方、じいちゃんにはどうしても確かめたいことがありました。

緑がたくさん山の絵から、山の空気が感じられ、ぼくたちと一緒に山に登っているようです。

題名の「ないしょないしょ」と2回なのはどうしてか、子どもたちと考えられたらいいですね。

とりのみじいさん



小沢正／文
長谷川知子／画
教育画劇（10分）

うっかり鳥を飲み込んでしまったおじいさんのおへそからは、鳥のしっぽが飛び出します。

そのしっぽを引っ張ってみると…。

おならから出てくる音の部分が、カラフルなふきだしで描かれています。
リズムよく読んで楽しい昔話です。

本によって聞こえてくるおならの言葉が違うので、読み比べてみると面白いです。

高学年から

おばあちゃんとバスにのって



マット・デ・ラ・ペーニャ／作
クリスチャン・ロビンソン／絵
石津ちひろ／訳
鈴木出版（10分）

ジェイは日曜日の教会のあと、いつもおばあちゃんとバスに乗って、ある場所に向かいます。「なんで車に乗らないの？」ジェイが疑問をぶつけると、おばあちゃんはとても素敵な答え方で、ジェイの気持ちや見方を変えてくれるのでした。

2人のやり取りを通じ、子どもが日常で目にする貧困や障害などの問題が、穏やかに描き出されます。

2人が出かけた「ある場所」が、生活困難者のためのボランティア食堂であることが最後にわかります。その時までには聞き手は、ジェイと同じように「助け合っていて自然なことだな。たのしいことだな」と思えるようになっていたのでは？
おばあちゃんの知恵は深く、とつてもあたたかいのです！

読み手は、ジェイの気持ちに寄り添って、素直に読み進めるのがいいでしょう。

しょうたとなっとう



星川ひろ子・星川治雄／写真・文
小泉武夫／原案・監修
ポプラ社（8分）

納豆のネバネバが原因で納豆が嫌いになってしまったしょうたは、農業の仕事をしているおじいちゃんとおばあちゃんから一緒に携わることで、大豆の成長を見届けます。おじいちゃんとおばあちゃんが、その大豆で、昔ながらのわらづと（藁の入れ物）を使い納豆を作ってくれ、しょうたはその美味しさに驚きます。

納豆は身近な食品ですね。子どもたちが、大豆の勉強をするタイミングで、この本を紹介できると、とても興味を持ってくれます。

「納豆食べてきた人は？」や「納豆は好きかな？」など、読む前に語りかけるのもいいかもしれません。

マッチ箱日記



ポール・フライシュマン／文
バグラム・イバトゥーリン／絵
島式子／訳、島玲子／訳
BL出版（15分）

イタリアからアメリカへ移民してきたおじいさんはイタリアで暮らしていた時には学校へ通えず、字が書けませんでした。そこで、字を書き残す代わりに、マッチ箱一つ一つに思い出のものを入れました。

何十年と経った今、孫が選んだマッチ箱の中身の思い出をおじいさんが語ってくれます。

「移民」ということで、高学年には少し難しいかもしれませんが、孫と一緒におじいさんの大切な思い出のおはなしを聞いて欲しいと思います。

マッチ箱日記を真似したい気持ちになります。



ボランティアおすすめ紙芝居

感染症対策でお互いに距離をとってのおはなし会が続いています。「あまり絵が小さいと後ろの人まで見えなくて困る」

そんな時は、絵が大きくて色づかいもはっきりした紙芝居はいかがでしょうか？

ボランティアおすすめの紙芝居をご紹介します。

低学年から



あんもちみつ

松谷みよ子／監修 水谷章三／脚本
宮本忠夫／絵 童心社 8場面（5分）

3つしかない餅を取り合うおじいさんとおばあさん。

デフォルメされた登場人物たちは、紙芝居ならではの大胆な迫力があって面白いです。

リズムの良い笑いばなしなので、初心者でも楽しく演じられます。

中学年から



やまんばのにしき

松谷みよ子／脚本 松成真理子／絵
童心社 12場面（10分）

やまんばに子どもが生まれた！村ではやまんばに餅を届けなければならぬ。道案内役を買って出たあかざばんばはどうなる？

紙芝居ならではの切り口で迫力ある場面展開が面白いです。同名絵本と読み比べてみても楽しいです。

高学年から



うばすて山

岩崎京子／脚本 長野ヒデ子／絵
童心社 16場面（8分）

日本各地に残る伝説の「うばすてやま」。

お国の存亡をかけた謎ときに老婆の知恵がひらめきます。

謎解きの部分を普通に読まずに、参加型にして聞き手に解いてもらうのもよいです。

他のリストは
埼玉県立図書館
ウェブサイトへ！



編集発行 埼玉県立久喜図書館 子ども読書支援センター
協力 子ども読書支援ボランティア
〒346-8506 埼玉県久喜市下早見85-5 TEL 0480(21)2659

